

奥州市立真城学校給食センター



ヒートポンプ給湯

贈呈理由

電気温水器からエコキュートへの取り替えにより、
大幅な省エネルギーを実現



奥州市立真城学校給食センター

食の黄金文化を築き、 現代に継承する奥州市

岩手県南部に位置する奥州市は世界遺産に登録された平泉の隣接地である。約100年もの間、栄華を極めた「平泉黄金文化」の食を支えていた奥州市は、古代から日高見(ひたかみ)の国や水陸万頃(すいりくばんけい)の地といわれる豊穡の地で、現在でも米、牛肉、りんご、野菜など多種多様な食材の一大生産地である。

また、「南部鉄器」や「岩谷堂筆筒」など、黄金文化を支えた食に関する産業も現代まで綿々とつながれている。

食の安心・安全を念頭に 給食施設の設備を刷新

奥州市(旧水沢市)は、集団食中毒防止のために給食施設と設備の整備、調理と衛生環境の改善を検討していた。

その結果、奥州市立真城学校給食センター(570食)は、HACCPの概念を取り入れた日本初のオール電化学校給食施設として1998年4月に供用開始した。

大型電気温水器(45kW)は定期的なメンテナンスを行ってきたが、老朽化にともないリニューアルを計画。2018年に業務用エコキュート(30kW、貯湯槽4t)に更新した。エコキュートの消費電力は電気温水器の半分に抑えられ、全体で約2割の省エネルギー化が図られたとともに、十分な湯量により満足できる結果となった。

食育活動を陰で支える 先進のヒートポンプ機器

真城学校給食センターは奥州市の豊富な食材を使った地産地消を推進し、「おいしい給食、体にいい給食」づくりに取り組んでいる。また、バイキング給食の日を設け、思い出に残る給食を提供

するなど食育にも力を入れている。

奥州市では将来、新施設建築を含めた給食センターの再編計画がある。真城学校給食センターの運営経験を活かし、省エネルギー、省CO₂に寄与するヒートポンプ機器の導入を視野に入れ、計画の検討を進めている。



業務用エコキュートと貯湯槽

奥州市立真城学校給食センター

所在地:岩手県奥州市水沢真城字高田44-1
竣工:2018年更新

■設備概要

業務用エコキュート30kW×1台
(三菱重工工業サーマルシステムズ)
貯湯槽4m³